

A True Description of the Mighty Kingdoms of Japan and Siam.
Written Originally in Dutch by Francis Caron and Joost Schorten:
And now rendered into English By Capt. ROGER MANLEY. LONDON,
Printed for Robert Boulter, at the Turks-head in Cornhill, over
against the Royall Exchange, 1671.

訳文の紹介

日本で長期に渡って滞在した第 8 代平戸オランダ商館長のフランソア・カロン (François Caron, 1600 - 1673) は、日本に関する詳細な報告書を執筆し、1636 年にオランダ東インド会社総督に提出しました。カロンの同僚であったハーゲナール (Hendrik Hagenaar) は、この報告書に補記を付けて『東インド会社の起源と発展』(1645 - 46 年刊) に *Beschrijvinghe van het machtigh coninckrijcke Japan* の題のもとで掲載しました¹。ハーゲナールの注記付の報告書は、1648 年にアムステルダムで『日本大王国志』のタイトルで単著として出版されました。『日本大王国志』が最初に出版されて 15 年後の 1671 年に、英国人ロジャー・マンリー (Roger Manley, 1626 - 1688) が本書を英訳し、それが *A True description of the mighty kingdoms of Japan & Siam* の題で刊行されました。本書は、昭和 11 年 (1936) に幸田成友 (1873 - 1954) によって初めて日本語に訳され、『日本大王国志』として刊行されました。幸田訳は、原典のオランダ語をもとにしつつ、英独仏諸訳をも参照し、とりわけイギリスの歴史学者チャールズ・ラルフ・ボクサー (Charles Ralph Boxer, 1904 - 2000) が編纂したマンリー訳の復刻版を参照にしています。ボクサーは、海外の新たな史料を駆使してマンリー訳に詳細な解説を施し、詳しい注を付けているため、カロンの生涯と業績を知る上で貴重な一冊である。幸田はカロンの伝記的な情報に関しては、ボクサーの解説を参照しており、『日本大王国志』に質疑応答の形式で記載されている日本関係の情報については、オランダ語版を主な題材としています。一方で、オランダ以外のヨーロッパにおける『日本大王国志』受容の視点から、その出版から最も早く刊行された英訳版の熟読は大事であり、マンリーの訳を和訳して、幸田訳との比較を試みます。現在ではほとんどの研究者が、原典のオランダ語版ではなく、マンリー訳やボクサー編の英語版を主な史料として使用しているため、今回の和訳は幸田訳とは別の基礎的史料を研究者に提供することを目的としています。

¹ 『日本大王国志』の成立については、フレデリック・クレインス『十七世紀のオランダ人が見た日本』(臨川書店、2010 年) が詳しい。